

考えながら動く
現場第一の議員

にれい辰雄



新潟県議第4期目に入り、さらにパワーアップして現場を駆け巡っています。
今回は二〇一九年度上半期の5大ニュースをお届けいたします！

ひとつの信念!
多くの行動!

プロフィール

昭和27年3月1日生まれ。67歳。新潟県立高田農業学校卒業。実家の農家を継ぎ、平成11年から柿崎町長を務める。合併後平成19年より新潟県議会議員を務めている。

知事とともに、
新潟を、上越を、よりよい地域に!



柿崎・大出口泉水から日本海を望む

6月定例議会での質問を一部抜粋!

県政の諸課題について

〔にれい〕 4月の統一地方選挙で回った中山間地域では、4年前と比べて荒廃が進み、高齢・過疎化もさらに進んだと感じた。人口が減ってもその地域に住み続けたいと思う人が住み続けられる地域づくりに向けてどのような施策を講じるのか。

〔A〕 地域の活力を維持していくためには、コミュニティの力を高め、地域内での合意形成をしながら実情や課題に応じて活性化策に取り組むことが重要。県では、住民主体の地域づくりを促進するため、地域の合意形成の促進、外部人材の活用、地域づくり活動の組織化・継続化の支援など、地域づくりの各段階に応じた支援策に取り組んでいく。

交通政策について

〔にれい〕 国はフリーゲージトレインの導入を断念したが、在来線の軌道を利用した新たな新幹線、いわゆる中速新幹線が実現すれば、県内交通網のアクセス改善に寄与するだけでなく、新設と比べ建築費の圧縮や並行在来線問題の解消などのメリットもあり、導入効果が高いと考えるが、どのように進めていくのか。

〔A〕 いわゆる中速新幹線が実現できれば、フル規格の新幹線と比べて整備コストが抑えられ、並行在来線問題も解消される可能性がある。県としては今年度より新幹線と在来線の直通運転の実現に向けて、羽越新幹線実現への影響も考慮に入れつつ、議員のご提案も含めあらゆる可能性を探っているところだ。

医療課題について

〔にれい〕 近年、わが県の人工透析患者数は横ばい傾向にあるものの、60歳以上の高齢者が75%以上を占めており、定期的な通院が必要な透析にあたっては高齢患者の通院の負担が危惧されているが、県の対応は。

〔A〕 平成31年1月現在、県内26市町村において透析患者に特化した通院費等の助成事業が行われている。県としては市町村にも支援を促してきたが引き続き様々な取り組み事例の紹介などにより、個々のニーズに応じた取り組みが行われるよう働きかけていく。

県立高校の運営について

〔にれい〕 少子化により県立高校の統廃合が進み、廃校が増えるだろう。近年、地域の企業では外国人労働者の雇用も進んできているが、生活面も含めて企業がサポートしきれない現状を踏まえ、廃校校舎を外国人労働者や技能実習生の宿泊を兼ねたサポートセンターとして有効利用してはどうか。

〔A〕 新たな在留資格の創設に伴い、今後増加が見込まれる外国人が安心して生活できるよう、今年度、県国際交流協会の既存の相談体制を拡充し、外国人の生活相談を多言語で受け付ける「多文化共生総合相談ワンストップセンター」を設置する方向で準備を進めている。今後センターの機能を県内各地域に広げる必要が生じた場合には、廃校となった校舎の利用も考えられると思うが、技能実習生の宿泊施設としての利用については、あくまで受け入れる企業の責任と判断によるものと考えている。

農業問題について

〔にれい〕 高温・干ばつが毎年のように発生していることから、中山間地域の農地を守るためには、農業用水の確保としてため池等の整備や平場における深井戸の整備を進める必要がある。地域の実態に即して県や市町村が主体となり地元農家と連携しながらソーシングすることで、選択と集中を図りながら必要な機能を備えた施設の整備を行っているのが効果的かつ効果的ではないか。

優良農地について

〔A〕 優良農地として守っていく必要がある農地としては、いわゆる農振農用地があり、中山間地域では、そのうちさらに、地域が自ら積極的に保全する農地として位置づけられている中山間地域等直接支払や多面的機能支払の対象農地がある。県としては市町村や地元農家と連携しながら、これらの対象農地を優先しつつ、地域の要望を踏まえ、効果的かつ効果的な整備を行っている。

※この他県の財政やトキ鉄運賃等についての質問もしています

1 医師不足は上越における「待ったなし」の課題

中速新幹線で県内の移動をスピーディかつスムーズに。



夢をのせて走る「かがやき」を!!

県内の交通機関の利便性向上は喫緊の課題。花角知事の公約である羽越新幹線の代替案として、新幹線の軌道から在来線の軌道に直接乗り入れることができる「中速新幹線」が今注目を浴びている。走行速度が新幹線と在来線の間くらいになり、県内の移動が便利になり時間も短縮できる。現在1時間44分かかる新潟-直江津間が50分に。

「かがやき」停車による利便性の向上を。



通勤医の確保

患者の高齢化とともに、医師も高齢化し、病院の医師不足、個人院の閉院が地域に及ぼす影響は大きい。とくに人工透析患者は受け入れ病院の減少により窮地に立たされている。対策としては地域外からの通勤医だ。現在首都圏から大勢の医師が通勤しているが、この数を増やすためには、なんとしても北陸新幹線「かがやき」の上越妙高駅停車を実現させたい。まずは始発と最終だけでも、という要望書提出が叶った。

交流人口を増やす

「かがやき」停車が実現すれば、インバウンドをはじめとする観光の入りみやビジネスの利便性が向上し、交流人口の大幅な増加が見込まれる。世界遺産登録を目指す佐渡を含めた広域観光圏の実現にも拍車がかかる。

3 防災・減災に向けて

河川の整備を進める。

自然災害が猛威を振るう昨今、安心安全な地域づくりは重要課題。住民からの要望により、各河川の河床掘削、立木の伐採を実施し、きれいで安全な川がよみがえっている。他の河川についても順次対策を施していく。



木田を流れる、きれいになった正善寺川

2 「花角知事を囲む会」in上越

新潟の未来を若者と語る。

上越市頸北地区の若者と花角知事との交流の機会をセッティング。大出口泉水を見学のあと、棚田と日本海の絶景を望む大出口テラスにて地元産のジビエや食材を囲みながら、知事と若者が忌憚のない意見交換をした。



地場産おいしかった!!

懇親会は上越の酒樽を並べて。

上越市内にて、花角知事の講話を聞き、上越の酒蔵の協力のもと、13の酒樽の樽開きで上越地域をアピール。320人余りの参加者が親睦を深めた。



地元のお酒でニコニコ

5 観光イベントを核とした地域活性化を

話題の「ひまわりコキア園」テープカットに参列。

夏から秋の観光の目玉となるアパリゾートのイベントのオープニングでテープカットに参列。アパグループ代表の元谷氏主宰の「勝兵塾」にて講師も務めさせていただき、観光による地域活性化のアイデアを共有。



会長、社長との会食

モータースポーツの日本海側の一大拠点に。

ここ数年、モータースポーツイベントで全国からの集客で賑わうアパリゾート。7月28日には大自然のコースを走破する「オフロードレース」が、8月31日~9月1日は全国からクラシックカーやスーパーカーが集結する「妙高ヒルクライム」が開催され、実行委員として関わった。



カッコイイ!

4 外国人の受け入れ体制を整えよう

外国人受入サポートセンターを開設。

少子高齢化が進むなか、外国人労働者や技能実習生の受け入れは必至の課題。中小企業等がスムーズかつ積極的に受け入れを進められるための体制づくりを再三訴えてきたが、今回、専門家に相談できる窓口として新潟県外国人材受入サポートセンター(行政書士会への委託)の開設にこぎつけた。今後は実習生等のサポートセンター開設も予定している。

